

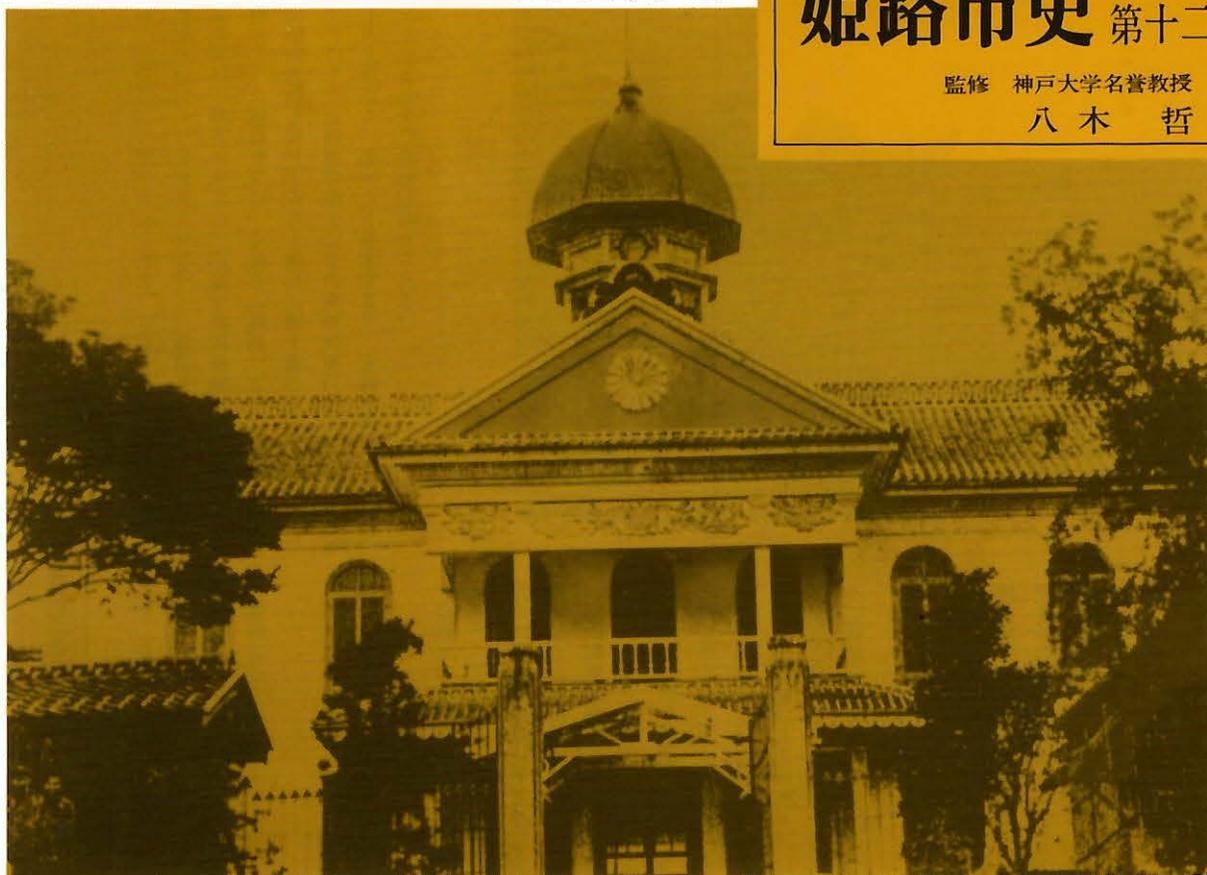
第三回配本

史料編 近現代 I

姫路市史 第十二卷

監修 神戸大学名誉教授

八木 哲浩



元飾磨県庁（姫路赤十字病院所蔵）

史料編 近現代 I 目次

明治前期

一 行財政と政治

- 1 飾磨県時代
 - 飾磨県政 播但二探 秩禄処分 地租改正
- 2 兵庫県下の行財政
 - 三新法下の行財政 自由民権運動 地誌

二 教育

- 1 学制期
 - 2 教育令期
 - 3 師範学校・中学校

三 産業と経済

- 1 土族就産
 - 自立・授産事業 県立綿糸製造所
- 2 農漁業・塩業
- 3 商業と流通
 - 商業・金融 交通・通信

四 社会生活と文化

- 1 衛生・警察・兵事
 - 社会 近代文化と思想

明治後期

一 行財政と政治

- 1 市制・町村制下の行財政
 - 市制・町村制・郡制の成立 日清・日露戦時期間の行財政
 - 日露戦後の行財政
- 2 国政・県政・市政
 - 大同団結運動 日清戦争前 日清戦争後 日露戦争後

二 産業と経済

- 1 農漁業・塩業
 - 工業（伝統的工業 皮革業 新工業） 商業・金融
- 2 商工業と流通
 - 交通・通信

三 軍事・教育・文化と生活

- 1 軍事
 - 2 教育と文化
 - 3 市民生活と社会問題
 - 日清・日露戦争と市民生活 姫路町中規約

〔付図〕

- 姫路市域地形図 飾東郡地図 飾西郡地図 姫路市街図

発行 姫路市

「史料編 近現代Ⅰ」発刊にあたって

大手前女子大学教授

宮川 秀 一

第十二巻は明治期の史料を集め、これを前期と後期とに分けて収録した。

前期の冒頭には飾磨県が位置する。播磨十六郡を管下に置くこの飾磨県は、その洋風白亜の新庁舎落成の翌日に廃止と決定し、県権令森岡昌純は新兵庫県の権令となって神戸に去った。すでに白鷺城は城としての機能を失い、今また「県都」としての誇りをも失った姫路は沈滞せざるをえない。飾磨県復活の運動も盛りあがらず空しく潰え去った。

それでもなお播州の雄としての貫禄は充分にあったといえよう。残された史料は、戦災で消失した旧市内を除いて、きわめて豊富であり、史料を大切に保存し、あるいはたんねんに記録して後世に伝えるとする先人の気魄が感じられる。

後期は市制実施による「姫路市」の発足にはじまる。明治二十二年二月の内務省告示第一号で市制実施が指定された全国三六市の一つである。

この時期姫路には山陽鉄道が開通し、ついで生野銀山と飾磨港とを結ぶ馬車道に播但鉄道が開通した。播州平野の中心という立地条件から、陰陽連絡鉄道をはじめさまざまな鉄道が姫路を起点に計画される。それはまた日清・日露両戦役を通じて姫路に軍都としての発展が期待されたからであった。

この時期に刊行された『鷺城新聞』は播州を代表する言論機関として論陣を張り、『神戸又新日報』と並んで多くの史料を提供して呉れる。

これらの史料が市民の皆さんの期待に添えるに足るものであることを念じてやまない。



手繰網使用図（漁具図解）関西学院大学図書館所蔵

手繰網使用図

第十二巻購読申込みについて

■本のかたち A五判 約九〇〇頁上製本 用紙は中性高質紙 表紙は別染（青色）の高級装丁用織物を使用。

■頒 価 六一〇〇円 送料 五〇〇円

■申込方法 電話又は官製はがきで申込んで下さい。

■発売予定 平成元年十一月

■申込先 〒670-0012 姫路市本町六八・二五八 日本城郭研究センター内

姫路市立城内図書館 史料整理担当 TEL〇七九二八九・四八八六

■続刊予定 第三巻（本文編 近世Ⅰ）平成二年度

既刊案内

第一回配本（昭和六十一年）

◎姫路市史第十巻史料編 近世Ⅰ

- 1 姫路藩史料Ⅰ（池田・三次松平氏時代）
 - 2 姫路藩史料Ⅱ（酒井氏時代）
 - 3 幕府・諸藩史料
- 付図（別箱入） 姫路城下町絵図・解説図
頒価 六三〇〇円 送料 五〇〇円

第二回配本（昭和六十二年）

◎姫路市史第十四巻別編 姫路城

- 1 姫路城の歴史
- 2 姫路城の構成
- 3 姫路城昭和の大修理
- 4 姫路城の文字・話題

資料編

付図（別箱入） 姫路城城郭図
頒価 五五〇〇円 送料 五〇〇円

発刊当時のチラシにつき表示されていない巻もありますが、姫路市史は全巻（16巻23冊）発刊済みです。